

短 報

富山県におけるツヤハダゴマダラカミキリの  
2019年以前の記録 6 題

岩田 朋文

富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Records of *Anoplophora glabripennis*  
(Motschulsky, 1853) Prior to 2019  
in Toyama Prefecture, Japan

Tomofumi Iwata

Toyama Science Museum

1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

1. はじめに

ツヤハダゴマダラカミキリ *Anoplophora glabripennis* (Motschulsky, 1853) は、中国、香港、朝鮮半島が原産の外来種であり、カエデ類（メープル）などの農業に関わる樹木、緑化樹、自然林などに大きな被害をおよぼす懸念があることから、世界の侵略的外来種ワースト100に選定されている (Global Invasive Species Database, 2021)。

富山県では、岩田・桐山 (2022) が県内で初めて記録して以降、2010, 2012, 2019, 2020, 2021, 2022年に確認されている (早瀬・桐山, 2022; 岩田・桐山, 2022; 岩田ほか, 2022, 2023a, b)。しかし、2012年と2019年の間は記録が無く、この期間の県内における生息状況は不明であった。

筆者は、2013, 2015, 2016, 2017, 2019年に富山県富山市内で撮影された本種の写真を入手したので、2012年と2019年の間を埋める記録として報告する。

2. 記録

1頭、富山市一本木 (常願寺川河川敷), 27.VII.2013 (図1A); 1頭、富山市曙町, 19.VIII.2015 (図1B); 1頭、同地, 27.VII.2016 (図1C); 1頭、同地, 2.VIII.2017 (図1D); 1頭、同地, 24.VIII.2017 (図1E); 1頭、富山市磯部町, 25.VIII.2019 (図1F)。いずれも撮影のみ。2013年の記録は木村浩一氏撮影、それ以外は金澤宏之氏撮影。

3. 各個体の撮影時の状況

撮影者の木村氏によると、常願寺川河川敷の個体はヤ

ナギ類の幹に静止していたとのこと。また、撮影者の金澤氏によると、曙町の個体はいずれもマンションの外壁や外階段に静止していたものであり、磯部町の個体は富山県護国神社付近の路上で静止していたとのこと。

4. 考察

本稿により、富山市曙町では、2015~2017年に本種が撮影されていたことが明らかとなった。同地付近では、撮影地点から直線距離で約1 kmの富山市新富町において2012年に採集されている (岩田・桐山, 2022) ほか、直線距離で1 km未満の富山市稲荷元町および同市牛島町 (富山駅) で2021年に発見されている (岩田ほか, 2023a)。さらに、直線距離で約1.5 kmの富山市湊入船町 (富岩運河環水公園) では2022年に採集されている (岩田ほか, 2023a)。これらをまとめると、富山市曙町付近では2012年以降、高い頻度で本種が発見されている。したがって、同地付近では少なくとも2012年頃から本種が定着している可能性が考えられる。

常願寺川河川敷では、本稿で記録した2013年のほか、岩田ほか (2022) が報告した富山市水橋市田袋における2019年の記録と、岩田ほか (2023a) が報告した富山市水橋開発における2022年の記録が存在する。また、富山市磯部町では、本稿で記録した2019年のほか、岩田ほか (2023a) が報告した磯部町公園における2021年の記録がある。複数年にわたって発見されていることから、両地域でも本種はすでに定着しているか、容易に侵入できる距離に定着地が存在する可能性が考えられる。

県内の既知記録 (早瀬・桐山, 2022; 岩田・桐山, 2022; 岩田ほか, 2022, 2023a, b) と本稿の記録をすべて統合させると、富山県では2010年以降、ほぼ毎年本種が確認されていることが判明した。しかも、2010年の記録地点である富山市西中野町と、2013年の記録地点である富山市一本木は直線距離で約7 km離れているうえ、両地点が所在する神通川と常願寺川に挟まれた平野部では、2012年と2015年にも富山市新富町と同市曙町でそれぞれ確認されている。したがって、富山県では2010年代前半の時点で、神通川と常願寺川に挟まれた平野部 (両河川間の直線距離はおよそ10 km) において広く生息していた可能性が考えられる。

本稿で考察した富山県における2010年代前半の記録状況は、下野ほか (2022) が報告した山口県岩国市と類似している。下野ほか (2022) は、山口県岩国市における2012, 2013, 2015, 2020, 2021年の記録を報告しており、このうち、2012, 2013, 2015年の記録地点間の直線距離を筆者が地図上で計測したところ、2012年の記録地点 (岩国市昭和町1丁目) と2013年の記録地点 (同市元町SL公

園)の距離は約0.3 kmであった一方、両地点と2015年の記録地点(同市美和町百合谷)の距離はともに約9 kmであった。2010年代前半に直線距離で約10 kmの範囲に複数の記録が散在している点は、富山県と類似している。

現時点では、本種が確認されている県のうち、こうした情報は下野ほか(2022)以外に無いため、山口県と富山県の記録状況が特異であるかどうかを判断することは難しいが、離れた2県で類似していることから、今後、他

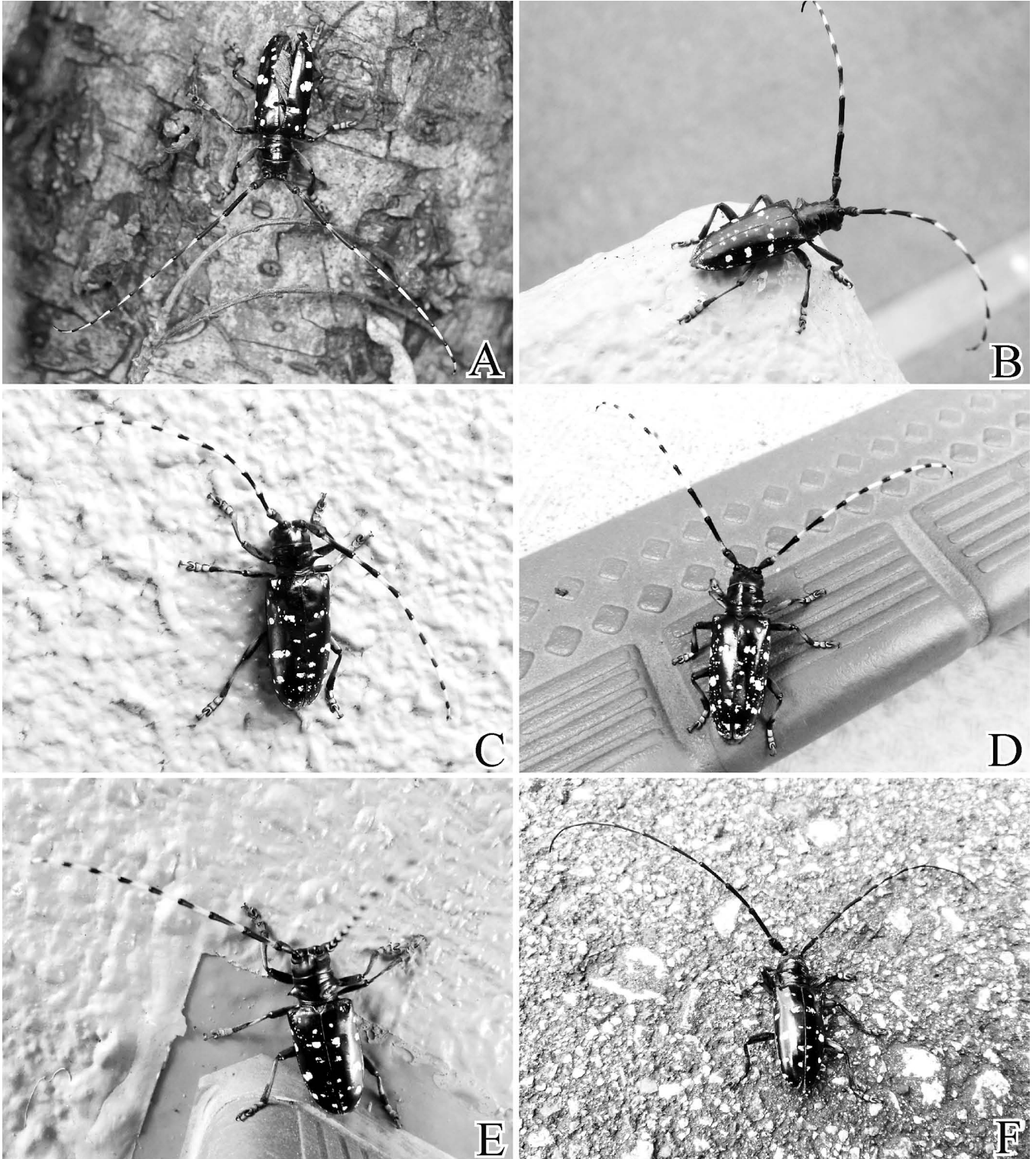


図1 富山県内で2019年以前に撮影されたツヤハダゴマダラカミキリ。A, 2013年撮影個体(富山市一本木 常願寺川河川敷); B, 2015年撮影個体(富山市曙町); C, 2016年撮影個体(富山市曙町); D, 2017年8月2日撮影個体(富山市曙町); E, 2017年8月24日撮影個体(富山市曙町); F, 2019年撮影個体(富山市磯部町)。

県でも類例が報告される可能性が考えられる。

## 5. 謝辞

本稿を記すにあたり、過去に撮影していた写真をご提供くださった金澤宏之氏（富山市）および木村浩一氏（富山市）、本稿をご校閲くださった桐山哲博士（富山市）にお礼申し上げます。

## 6. 引用文献

Global Invasive Species Database, 2021. Species profile: *Anoplophora glabripennis*. Downloaded from <http://www.iucngisd.org/gisd/species.php?sc=111> (2021年9月25日アクセス).

早瀬裕也・桐山 哲, 2022. ツヤハダゴマダラカミキリ *Anoplophora glabripennis* の富山県中央植物園への侵入とその被害 (速報). 富山県中央植物園研究報告, (27) : 71-84.

岩田朋文・桐山 哲, 2022. 2010年の採集記録を含む富山県におけるツヤハダゴマダラカミキリの初記録. 月刊むし, (611) : 34-36.

岩田朋文・不破唯央利・不破光大, 2022. 2019年採集の富山県産ツヤハダゴマダラカミキリ. 月刊むし, (617) : 49.

岩田朋文・桐山 哲・早瀬裕也, 2023a. 富山県における2021年および2022年のツヤハダゴマダラカミキリ生息状況. 富山市科学博物館研究報告, (47) : 11-18.

岩田朋文・霜鳥智也・桐山 哲, 2023b. 富山市有峰の標高1133 m地点にてツヤハダゴマダラカミキリを採集. 富山の生物, (62) : 82-85.

下野誠之・永野篤弘・平山洋人, 2022. 山口県のツヤハダゴマダラカミキリの記録. 月刊むし, (613) : 56-57.